

西 修教授 プロフィール

年 譜

出生 一九四〇年六月 富山市に生まれる

一・学 歴

- 一九四七年四月 国立富山大学教育学部附属小学校入学
- 一九五三年三月 同小学校卒業
- 一九五三年四月 国立富山大学教育学部附属中学校入学
- 一九五六年三月 同中学校卒業
- 一九五六年四月 富山県立富山中部高等学校入学
- 一九五九年三月 同高等学校卒業
- 一九六〇年四月 早稲田大学第一政治経済学部政治学科入学
- 一九六四年三月 同大学同学部同学科卒業
- 一九六四年四月 早稲田大学大学院政治学研究所修士課程（憲法専修）入学

西 修教授 プロフィール

- 一九六六年三月 同大学院同研究科同課程修了
- 一九六六年四月 早稲田大学大学院政治学研究所科博士課程（憲法専修）入学
- 一九七〇年三月 同大学院同研究科同課程単位取得満期退学
- 一九八四年三月 メリーランド大学、プリンストン大学在外研究（一九八五年三月まで）
- 一九九一年四月 東南アジア研究所（シンガポール）、エラスムス大学（オランダ）在外研究（一九九一年九月まで）

## 二. 学位

- 一九九八年二月 学位請求論文『憲法体系の類型的研究』（成文堂）により「博士（政治学）」早稲田大学」を授与される
- 二〇〇六年六月 学位請求論文『日本国憲法成立過程の研究』（成文堂）により「博士（法学）」日本大学」を授与される

## 三. 職歴

- 一九七〇年四月 防衛大学校人文科学教室専任講師
- 一九七四年三月 防衛大学校人文科学教室助教
- 一九七四年四月 駒澤大学法学部助教
- 一九八〇年四月 駒澤大学法学部教授
- 一九九〇年四月 早稲田大学商学部非常勤講師（二〇〇五年三月まで）
- 一九九一年九月 早稲田大学政治経済学部非常勤講師（一九九四年三月まで）
- 一九九二年四月 慶応義塾大学法学部非常勤講師（一九九四年三月まで）
- 一九九五年四月 早稲田大学大学院政治学研究所非常勤講師（二〇〇四年三月まで）
- 一九九七年四月 防衛大学校総合安全保障研究科非常勤講師（二〇〇〇年三月まで）
- 二〇〇一年三月 駒澤大学法学部定年退職
- 二〇一一年六月 駒澤大学名誉教授

#### 四、学会活動等

比較憲法学会理事、防衛法学会名誉理事長、日本防衛学会理事、国家基本問題研究所理事、日本国際救援行動委員会理事、政策研究フォーラム理事（以上現職）

安倍内閣総理大臣諮問機関「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」委員、内閣府「情報保全の在り方に関する有識者会議」座長、読売新聞社憲法問題調査会委員、千代田区国際交流・平和推進懇談会座長など歴任

#### 五、駒澤大学での役職

- 一九八七年四月 法学部第二部法律学科主任（九一年三月まで）
- 一九九二年四月 学生部長兼評議員（九三年三月まで）
- 一九九四年四月 法学部法律学科主任（九五年三月まで）
- 一九九七年四月 法学部長兼理事および評議員（九九年三月まで）
- 一九九九年四月 大学院法学研究科委員長（〇一年三月まで）
- 二〇〇一年四月 大学院法学研究科公法学専攻主任（〇七年三月まで）
- 二〇〇一年四月 法学研究所所長（〇九年三月まで）

#### 著作等目録

（二〇一一年三月末現在）

#### 一、著書

（一）単著

- 『憲法ノート』（静進堂） 一一四頁 一九六九年 四月
- 『現代世界の憲法制度』（成文堂） 二八八頁 一九七四年 七月

- 『憲法講義 上巻』(静進堂) 二七三頁 一九七四年 八月
- 『国の防衛と法』(学陽書房) 二四八頁 一九七五年 一月
- 『憲法講義 下巻』(静進堂) 一二六頁 一九七七年 四月
- 『自衛権』(学陽書房) 二〇五頁 一九七八年 一月
- 『自衛隊法と憲法第九条』(教育社) 一七二頁 一九七八年一〇月
- 『憲法』(実務教育出版) 二七九頁 一九八二年 七月
- 『憲法九条と自衛隊法』(教育社) 一八九頁 一九八三年 四月
- 『各国憲法制度の比較研究』(成文堂) 五三六頁 一九八四年 一月
- 『日本国憲法の四〇年』(教育社) 一七三頁 一九八六年 五月
- 『ドキュメント日本国憲法』(三修社) 三七九頁 一九八六年 七月
- 『日本国憲法の誕生を検証する』(学陽書房) 二七八頁 一九八六年 一月
- 『“The Constitution and the National Defense Law System in Japan” (Seibundo) 一八五頁 一九八七年 九月
- 『話題から学ぶ憲法』(自由国民社) 二三〇頁 一九八九年 五月
- 『“Ten Days Inside General Headquarters (GHQ)” (Seibundo) 二一〇頁 一九八九年 二月
- 『“Constitution of Japan (Chronology & Bibliography)” (Oceana Publications, Inc) 四六頁 一九九〇年 四月
- 『よくわかる平成憲法講座』(TBSブリタニカ) 二八七頁 一九九五年 二月
- 『憲法体系の類型的研究』(成文堂) 五三六頁 一九九七年 一月
- 『日本国憲法を考える』(文春新書) 二三八頁 一九九九年 三月
- 『日本国憲法はこうして生まれた』(中央公論新社) 四一九頁 二〇〇〇年 四月
- 『ここがへんだよ!日本国憲法』(アスキー・コミュニケーションズ) 二七七頁 二〇〇一年 五月

- 『テロ対策関連三法』（内外出版）七九頁（解説部分九頁） 二〇〇一年一月
- 『有事法制の現況―法案読解と展望―』（内外出版）一七五頁（解説部分二〇頁） 二〇〇二年九月
- 『有事法制の解説』（内外出版）七一頁（解説部分二四頁） 二〇〇三年七月
- 『日本国憲法成立過程の研究』（成文堂）四〇五頁 二〇〇四年三月
- 『現代世界の憲法動向』（成文堂）三八二頁 二〇一一年二月

(一) 監修

- 『憲法 21世紀に向けて』（資料監修、読売新聞社編、読売新聞社）三六六頁 一九九四年二月
- 『日本国憲法が驚くほどよくわかる本』（ワニブックス）二二三頁 二〇〇二年二月
- 『詳解 有事法制』（内外出版）二〇五頁 二〇〇四年八月
- 『詳解 有事法制 17年増補版』（内外出版）二八七頁 二〇〇五年七月
- 『防衛省移行の概要』（内外出版）一五八頁 二〇〇六年八月
- 『世界地図でわかる日本国憲法』（講談社）一二七頁 二〇〇八年四月

(三) 共著

- 『世界の憲法』（大西邦敏監修、成文堂）  
 執筆部分「韓国憲法」「ドイツ連邦共和国基本法」「ギリシア国憲法」一一六頁 一九七一年九月
- 『憲法読本』（共著者、奥原唯弘、梅木崇、西岡祝、高文堂）  
 執筆部分「天皇」「国会」「内閣」「司法」一一七頁 一九七一年九月
- 『政治学読本』（共著者、奥原唯弘ほか、高文堂）執筆部分「政治機構の比較」「選挙と議会政治」六二頁 一九七一年九月
- 『政治学講義』（奥原唯弘・小林正敏編、成文堂）執筆部分「デモクラシー」三〇頁 一九七二年四月
- 『比較憲法講義』（清水望編、青林書院新社）執筆部分「二院制」四一頁 一九七二年一〇月

- 『判例演習シリーズ憲法1 統治の機構と作用』（林修三・中山健男・奥原唯弘編、成文堂）  
 執筆部分「法律時期の成立―臨時物資需給調整法違反物価統制令違反被告事件―」五頁  
 一九七三年 六月
- 『判例演習シリーズ憲法2 基本的人権』（林修三・中山健男・奥原唯弘編、成文堂）  
 執筆部分「団結権・団体行動権の制限」七頁  
 一九七三年 九月
- 『口語防衛法』（宇都宮静男監修、自由国民社）執筆部分「防衛庁設置法」「自衛隊法」ほか三三二頁  
 一九七四年 一月
- 『演習憲法』（林修三・奥原唯弘編、高文堂）執筆部分「自衛権と戦力」八頁  
 一九七五年 一月
- 『憲法』（共著者 戸津正勝、萩原直三、駒沢書店春秋社）  
 執筆部分「序説」「財政」「地方自治」「憲法の改正」三四頁  
 一九七七年 一〇月
- 『衆参両院議長の地位と権限』（共著者 戸津正勝、教育社）一八六頁  
 一九七八年 一月
- 『日米の安全保障と各党の防衛政策』（共著者・吉原恒雄、教育社）一四五頁  
 一九七九年 一月
- 『基本マスター 憲法』（共著者 斉藤寿、小林弘人ほか、法学書院）  
 執筆部分「バス会社の運転手採用の際における前歴調査」ほか  
 一九七九年 八月
- 『法律マスター講座 憲法コース』（林修三監修、実務教育出版）  
 執筆部分「教材Ⅰ ガイドブック」二二三頁、「教材Ⅱ テキストブック」二七九頁ほか  
 一九八一年
- 『転機に立つ日本の防衛』（共著者 上條末夫、学陽書房）執筆部分「防衛法制の問題点と整備」八六頁  
 一九八二年 三月
- 『世界政治ハンドブック』（飯坂良明・清水望・堀江湛・宮里正弦編、有斐閣）  
 執筆部分「インド（共稿）」二二頁  
 一九八二年 四月
- 『世界の国防制度』（大平善悟編、第一法規）執筆部分「インドネシア」五〇頁  
 一九八二年 九月
- 『各国憲法論』（共著者 網中政樹、石田栄仁郎ほか、学陽書房）執筆部分「ソ連の憲法」四一頁  
 一九八二年 九月
- 『日本憲法の諸問題 小森義峯先生還暦記念論文集』（嵯峨野書院）執筆部分「憲法9条の考え方」一四頁  
 一九八三年 五月

- 『憲法における制度と思想 清水 望先生還暦記念』（成文堂）  
 執筆部分「憲法の分類——一つの試論として——」二四頁  
 一九八四年十一月
- 『日本国憲法講義』（奥原唯弘編、啓正社）執筆部分「戦争の放棄」二四頁  
 一九八六年五月
- 『日本国憲法制定の経緯——連合国総司令部の憲法文書による——』（犬丸秀雄監修、第一法規）  
 執筆部分「内閣書記官長との会談」など一八ドキュメント  
 一九八九年二月
- 『憲法の諸問題 奥原唯弘教授還暦記念論文集』（成文堂）執筆部分『改憲論・護憲論』再考』二八頁  
 一九八九年七月
- 『世界の国防制度（新訂）』（防衛法学会編、第一法規）執筆部分「イギリス」一五頁  
 一九九一年一月
- 『憲法を考える』（読売新聞社調査研究部編）報告部分「憲法九条に関する学説と成立過程」二〇頁  
 一九九三年三月
- 『法と正義 田上穰治博士追悼論文集』（比較憲法学会編、政光プリプラン）  
 執筆部分「憲法見直し論議の今日的意義」一〇頁  
 一九九三年五月
- 『現代における憲法問題の諸相 小森義峯教授古稀記念論集』（国書刊行会）  
 執筆部分「最近の世界の憲法動向」二九頁  
 一九九四年二月
- 『憲法における欧米的視点 清水望先生古稀記念』（成文堂）執筆部分「各国憲法と宗教」三七頁  
 一九九五年一月
- 『戦後を超える』（21世紀日本フォーラム編、嵯峨野書院）  
 執筆部分「日本国憲法の得たものと失ったもの」一七頁  
 一九九五年二月
- 『安全保障への提言』（読売新聞社）執筆部分「安全保障の法的问题点」一三頁  
 一九九五年二月
- 『平和・安全保障と法』（安田寛監修、内外出版）執筆部分「わが国防衛法制の基本」一三頁  
 一九九六年四月
- 『日本国憲法のすべて This is 読売5月号臨時増刊』（読売新聞社）  
 執筆部分「法制局解釈を検証する」ほか四〇頁  
 一九九七年五月
- 『現代国家の制度と人権 榎原猛先生古稀記念論集』（法律文化社）

- 執筆部分 「現代における君主制の種々相」 二二二頁  
一九九七年 一月
- 『新しい日本の国家像』（佐瀬昌盛編著、財団法人富士社会教育センター）  
執筆部分 「日本国憲法の光と影」「新しい憲法像」 三二頁  
一九九九年 七月
- 『新しい日本の憲法像』（共著者 大原康男、石田光義、吉原恒雄、財団法人富士社会教育センター）  
執筆部分 「求められる新しい憲法像」「日本国憲法の成立過程」「地方自治の諸問題」「新しい憲法像の創造に向けて」  
五六頁  
二〇〇〇年 七月
- 『日本は「神の国」ではないのですか』（加地伸行編著、小学館）  
執筆部分 「日本国憲法と象徴天皇制」 一三頁  
二〇〇〇年 八月
- 『日本の安全保障法制』（内外出版）（共著者 浜谷英博、高井晋、松浦一夫、富井幸雄）  
執筆部分 「安全保障と法」「わが国防衛法制の基本」 五八頁  
二〇〇一年 四月
- 『憲法改正 読売試案二〇〇四年』（読売新聞社編、中央公論新社）  
執筆部分 「読売試案を読んで」 ほか三一頁  
二〇〇四年 七月
- 『日本の憲法 国民主権の論点』（講談社） 執筆部分 「改正に向けた三つの論点」 二二頁  
二〇〇四年 八月
- 『我が国防衛法制の半世紀 発展の軌跡と展望』（共著者・安田寛ほか、内外出版）  
執筆部分 「憲法と自衛隊の半世紀」 三七頁  
二〇〇四年 二月
- 『実録 日本占領 GHQ改造の7年』（学習研究社） 執筆部分 「日本国憲法制定」 六頁（四段）  
二〇〇五年 八月
- 『Rethinking the Constitution Anthology of Japanese Constitution』  
(Translated by Fred Uleman, Japanese Research Inc.) “Examining Past, Present and Future” 三三頁  
二〇〇六年
- 『父が子に教える昭和史』（文藝春秋） 執筆部分 「日本国憲法」 七頁  
二〇〇九年 八月



(四) 編著

- 『憲法基本判例』(林修三・齋藤寿・西 修編、青林書院新社) 二五八頁  
一九七六年 八月
- 『法学・憲法』(関口雅夫・西 修編、方円書林)
- 執筆部分 「憲法序説」「財政」「地方自治」「憲法の改正」三四頁  
一九七七年二月
- 『憲法資料体系・中東』(浦野起央・西 修編、パピルス出版) 上下二段組み六一四頁  
一九七九年 八月
- 『憲法資料体系・アジアⅠ』(浦野起央・西 修編、パピルス出版) 上下二段組み六〇九頁  
一九八〇年一〇月
- 『憲法資料体系・アフリカⅠ』(浦野起央・西 修編、パピルス出版) 上下二段組み六九六頁  
一九八二年 九月
- 『行政書士受験講座3 憲法』(法学書院) 執筆部分「憲法」「人権宣言」ほか  
一九八三年 五月
- 『日本国憲法を考える』(佐藤寛行・西 修編、学陽書房)
- 執筆部分「憲法9条と国の安全」「憲法改正」四九頁  
一九八三年 八月
- 『憲法資料体系・アジアⅡ』(浦野起央・西 修編、パピルス出版) 上下二段組み六三七頁  
一九八四年 四月
- 『憲法資料体系・アジアⅢ』(浦野起央・西 修編、パピルス出版) 上下二段組み六三七頁  
一九八四年 四月
- 『憲法資料体系・アフリカⅡ』(浦野起央・西 修編、パピルス出版) 上下二段組み五〇四頁  
一九八四年 八月
- 『憲法新講』(西 修、林 烈、青山武憲編、法文館) 執筆部分「経済的自由権」ほか二五頁  
一九八六年 五月
- 『日本国憲法25講』(八千代出版)
- 執筆部分「憲法を学ぶにあたって」「日本国憲法の成立」「平和主義(一)」「平和主義(二)」三二頁  
一九九三年 九月
- 『行政書士受験講座三 憲法』改訂版』(法学書院) 執筆部分「国民主権」「天皇制」ほか  
一九九四年一〇月
- 『エレメンタリ憲法』(成文堂) 執筆部分「憲法と現代社会」「日本国憲法の成立過程」  
二〇〇一年 四月
- 『国民の権利および義務 総説、精神的自由権』四七頁
- 『エレメンタリ憲法(新訂版)』(成文堂) 執筆部分「憲法と現代社会」「日本国憲法の成立過程」

「国民の権利および義務 総説、精神的自由権」五六頁

二〇〇八年 六月

(五) 翻訳書

『アメリカ憲法入門』(C・ハーマン・プリチェット著、村田光堂、西 修、竹花光範共訳、成文堂) 翻訳部分八一頁

一九七二年 七月

『現代の全体主義と民主主義』(ウイリアム・エーベンシュタイン著、奥原唯弘監訳、滝沢一郎、西 修共訳、成文堂)

一九七四年 二月

翻訳部分二〇二頁

『政治的不服従』(L・マクファアレーン著、斉藤寿、西 修、岩下栄一共訳、早稲田大学出版社)

一九七七年 五月

翻訳部分一四頁、訳者あとがき一二頁

『憲法改正小委員会秘密議事録』(森 清監訳、村川一郎、西 修共訳 第一法規)

一九八三年一月

翻訳部分「内閣書記官長との会談」など八七頁

一九九四年二月

『世界の憲法』(アルバート・P・ブラウスタイン著、単訳、成文堂) 一二七頁

二. 論 稿

「立法拒否権について―比較憲法的考察―」(修士論文)

一九六六年 三月

「マグレブ諸国の憲法」(『月刊アフリカ』七卷六号) 三頁

一九六七年 六月

「仏語圏アフリカ諸国の憲法」(『月刊アフリカ』七卷七号) 四頁

一九六七年 七月

「南ア共和国の憲法」(『月刊アフリカ』七卷八号) 四頁

一九六七年 八月

「スーダン共和国の憲法」(『月刊アフリカ』七卷九号) 三頁

一九六七年 九月

「コンゴ民主共和国の憲法」(『月刊アフリカ』七卷一〇号) 四頁

一九六七年一〇月

「英語アフリカ諸国の憲法(1)」(『月刊アフリカ』七卷一一号) 三頁

一九六七年十一月

「英語アフリカ諸国の憲法(2)」(『月刊アフリカ』七卷一二号) 三頁

一九六七年十二月

- 「ソマリア・マダガスカルの憲法」『月刊アフリカ』八巻二号) 四頁  
一九六八年 二月
- 「エチオピア共和国の憲法」『月刊アフリカ』八巻四号) 四頁  
一九六八年 四月
- 「タイ国憲法―解説と仮訳」『外交時報』一〇六一号) 一四頁  
一九六九年 三月
- 「議会意思の構成形態―日本国憲法五九条二項に関連して」『政研論叢』創刊号) 一三頁  
一九六九年 三月
- 「韓国の憲法改正問題」『外交時報』一〇六四号) 四頁  
一九六九年 六月
- 「アメリカ合衆国における立法拒否権」(憲法学会『憲法研究』六号) 三三三頁  
一九六九年一〇月
- 「二院制の退潮」『防大紀要』二二輯) 六一頁  
一九七一年 三月
- 「代表制について」『防大紀要』二二輯) 五四頁  
一九七一年 九月
- 「ガーナの新憲法について」『防大紀要』二四輯) 二〇頁  
一九七二年 三月
- 「各国憲法に見る非常事態対処規定」『法と秩序』二巻二号) 一三頁  
一九七二年 四月
- 「モロッコ王国の憲法」『法と秩序』二巻三号) 七頁  
一九七二年 六月
- 「各国憲法に見る非常事態対処規定(1)」『防大紀要』二五輯) 二四頁  
一九七二年 九月
- 「カンボジア共和国憲法」『法と秩序』二巻四号) 一二頁  
一九七二年 八月
- 「韓国第四共和制憲法」『法と秩序』二巻六号) 一三頁  
一九七二年一二月
- 「世界各国憲法年表」(比較法政(創刊号)奥原唯弘と共稿) 六三頁  
一九七二年一二月
- 「自衛官の法的地位」『法と秩序』三巻二号) 六頁  
一九七三年 四月
- 「各国憲法に見る非常事態対処規定(2)」『防大紀要』二八号) 二三頁  
一九七四年 三月
- 「『文民』の意味について」『国防』一〇頁  
一九七四年 八月
- 「ソ連の選挙制度」『法と秩序』四巻五号) 七頁  
一九七四年 九月
- 「憲法と平和」『法と秩序』四巻六号) 九頁  
一九七四年一二月

- 「ザイール共和国憲法」(駒澤大学『法学論集』一一号)二四頁  
一九七四年一月
- 「ビルマ連邦社会主義共和国憲法(上)」(『外交時報』一二二五号)一〇頁  
一九七五年五月
- 「シリア・アラブ共和国憲法」(『法と秩序』七頁  
一九七五年五月
- 「ビルマ連邦社会主義共和国憲法(下)」(『外交時報』一二二六号)九頁  
一九七五年六月
- 「セネガル共和国憲法」(駒澤大学『政治学論集』二号)二二頁  
一九七五年七月
- 「憲法九条とわが国の安全保障」(『月刊自由民主』一三八号)七頁  
一九七五年一月
- 「Political Disobedience」(翻訳 駒澤大学『法学論集』一二号)一五頁  
一九七五年一月
- 「比較憲法上からみたわが国防衛法の特徴(1)」(『防衛アンテナ』一八五号)一二頁  
一九七五年二月
- 「比較憲法上からみたわが国防衛法の特徴(2)」(『防衛アンテナ』一八六号)一五頁  
一九七六年一月
- 「イエメン民主共和国憲法」(駒澤大学『法学部研究紀要』三四号)三八頁  
一九七六年三月
- 「国家緊急権に関する南北戦争時の若干の判例について」(駒澤大学『法学論集』一三号)二五頁  
一九七六年三月
- 「アラブ首長国連邦憲法」(駒澤大学『政治学論集』四号)三〇頁  
一九七六年八月
- “War and Peace (1)” (『防大紀要』三三輯) 一六頁  
一九七六年九月
- 「長沼事件控訴審判決と自衛隊」(『革新』七五号)九頁  
一九七六年一〇月
- 「『平和的生存権論』考」(『法と秩序』六卷六号)一三頁  
一九七六年一月
- 「長沼ナイキ事件控訴審判決」(駒澤大学『法学論集』一四号 梅木崇と共稿)二五頁  
一九七六年二月
- 「カタール国暫定憲法」(駒澤大学『政治学論集』五号)一九頁  
一九七七年三月
- 「イラク共和国暫定憲法」(駒澤大学『法学論集』一七号)一六頁  
一九七七年三月
- 「ソ連憲法草案の読み方」(『改革者』二〇九号)一二頁  
一九七七年八月
- “War and Peace (2)” (『防大紀要』三五輯) 一八頁  
一九七七年九月

- 「各国憲法における最高裁判所裁判官の選任方法」(駒澤大学『政治学論集』六号)四一頁  
一九七七年一〇月
- 「バーレン国憲法」(駒澤大学『政治学論集』七号)二四頁  
一九七八年二月
- 「アフガニスタン共和国憲法」(駒澤大学『法学部研究紀要』三六号)三六頁  
一九七八年三月
- 「イエメン・アラブ共和国憲法」(駒澤大学『法学論集』一七号)二六頁  
一九七八年三月
- 「性差別」(近畿大学比較法・政治研究所編『平等権に関する資料集』二)九〇頁  
一九七八年六月
- 「防衛法研究の課題」(防衛法学会『防衛法研究』八頁  
一九七八年五月
- 「国家的事業と民主主義」(『現代警察』一六号)八頁  
一九七八年八月
- 「『有事立法論』考」(『法と秩序』八卷五号)六頁  
一九七八年一〇月
- 「防衛二法概説」(『法令解説資料』七号)九頁  
一九七八年二月
- 「我が国防衛法の制定過程」(『法令解説資料』八号)一七頁  
一九七九年三月
- 「自衛隊裁判の概要(1)」(『法令解説資料』九号)一〇頁  
一九七九年六月
- 「政軍関係に関するアメリカの憲法構造」(抄訳『防衛法研究』三号)一七頁  
一九七九年六月
- 「自衛隊裁判の概要(2)」(『法令解説資料』一〇号)一〇頁  
一九七九年八月
- 「シビリアン・コントロール―アメリカとの比較を通じて(1)」(『法令解説資料』一三号)九頁  
一九七九年二月
- 「シビリアン・コントロール―アメリカとの比較を通じて(2)」(『法令解説資料』一四号)一六頁  
一九八〇年三月
- 「国家と非常事態」(『改革者』二四二号)一三頁  
一九八〇年五月
- 「自衛隊の行動法制(1)」(『法令解説資料』一六号)一一頁  
一九八〇年八月
- 「危機管理と体制の整備」(防衛法学会『防衛法研究』四号)二五頁  
一九八〇年九月
- 「自衛隊の行動法制(2)」(『法令解説資料』一七号)一〇頁  
一九八〇年一〇月
- 「イラン・イスラム共和国憲法」(駒澤大学『政治学論集』一二号)三二頁  
一九八〇年十一月

- 「自衛隊の隊員の身分及び服務（1）」『法令解説資料』二〇号）一三頁  
 一九八二年 二月
- 「自衛隊の隊員の身分及び服務（2）」『法令解説資料』二二号）一三頁  
 一九八二年 四月
- 「文民統制は完全か」『ボイス』一〇頁  
 一九八二年 五月
- 「憲法論議の偽善を排す」『革新』一三〇号）一三頁  
 一九八二年 五月
- 「防衛法解説シリーズの執筆を終えて」『法令解説資料』二二号）六頁  
 一九八二年 六月
- 「徴兵制は苦役か（付）一六五カ国の徴兵制一覧」『正論』一八頁  
 一九八二年 六月
- 「世界各国憲法における国防・軍事・平和主義規定（その1）」『レファレンス』三二卷八号）三〇頁  
 一九八二年 八月
- 「世界各国憲法における国防・軍事・平和主義規定（その2）」『レファレンス』三二卷九号）六一頁  
 一九八二年 九月
- 「世界各国憲法にみる兵役規定」『防衛法学会』『防衛法研究』五号）二二頁  
 一九八二年 九月
- 「世界各国憲法における国防・軍事・平和主義規定（その3）」『レファレンス』三二卷一〇号）三二頁  
 一九八二年一〇月
- 「コモロ連邦イスラム共和国憲法」〔駒澤大学』法学部研究紀要』三九・四〇号）二四頁  
 一九八二年 三月
- 「シベリアン・コントロールと国防会議」〔防衛法学会』『防衛法研究』六号）二五頁  
 一九八二年 九月
- 「各国における憲法改正の実際」『時の課題』六頁  
 一九八二年一〇月
- 「土俵のない第9条論議」『経済往来』九頁  
 一九八二年十一月
- 「トンガ王国憲法」〔駒澤大学』法学論集』二六号）二六頁  
 一九八三年 二月
- 「アメリカ合衆国大統領の法案拒否権」〔駒澤大学』法学論集』二七号）四八頁  
 一九八三年 三月
- 「代表制の理論と実際」〔駒澤大学』『政治学論集』一七号）六五頁  
 一九八三年 三月
- “Civilian Control”〔駒澤大学』法学部研究紀要』四一号）五二頁  
 一九八三年 三月
- 「平和主義と各国憲法」〔防衛法学会』『防衛法研究』七号）二八頁  
 一九八三年 九月
- 「二院制度」〔駒澤大学』『政治学論集』一八号）七〇頁  
 一九八三年一月

- 「憲法九条をめぐる動向と現実」『現代警察』三四号）八頁  
 一九八三年一月
- 「ソ連憲法の欺瞞」『正論』九頁  
 一九八四年九月
- 「憲法の分類」（清水望先生古希記念『憲法における制度と思想』所収）二八頁  
 一九八四年一月
- 『現行憲法』聖典化のルーツ『諸君！』一〇頁  
 一九八五年一月
- 「アメリカの国防中央機構」（防衛法学会『防衛法研究』九号）一九頁  
 一九八五年一月
- 「総司令部の中の一日間（1）」『改革者』三〇五号）一七頁  
 一九八五年一月
- 「総司令部の中の一日間（2）」『改革者』三〇六号）一六頁  
 一九八五年一月
- “Article 9 of the Constitution and the Self Defense Forces”（駒澤大学『法学部研究紀要』四四号）七五頁  
 一九八六年三月
- 「日本国憲法の記述に関する連合国防司令部の検閲について（1）」（駒澤大学『政治学論集』二三号）二七頁  
 一九八六年三月
- 「文民条項の成立経緯と意味」『防衛法研究』一〇号）一五頁  
 一九八六年一月
- 「日本国憲法の記述に関する連合国防司令部の検閲について（2）」（駒澤大学『政治学論集』二四号）二四頁  
 一九八六年二月
- 「ブルネイ・ダルサラーム国の憲法構造」（駒澤大学『法学論集』三四号）一七頁  
 一九八七年一月
- “The Enactment Process of Art. 9 of the Japanese Constitution”（駒澤大学『法学部研究紀要』四五号）五一頁  
 一九八七年三月
- 「戦争権限法」のその後『新防衛論集』一四卷四号）二六頁  
 一九八七年三月
- 「改憲論の比較研究」『改革者』三三三号）一七頁  
 一九八七年五月
- 「レーガン政権下の戦争権限法」（防衛法学会『防衛法研究』一一号）一〇頁  
 一九八七年九月
- 「極東委員会と日本国憲法（1）」（駒澤大学『法学論集』三六号）四六頁  
 一九八八年一月
- “Ten Days Inside General Headquarters (GHQ)”（駒澤大学『法学部研究紀要』四六号）四六頁  
 一九八八年三月
- “Ten Days Inside General Headquarters (GHQ) (2)”（駒澤大学『政治学論集』二七号）六一頁  
 一九八八年三月
- “Ten Days Inside General Headquarters (GHQ) (3)”（駒澤大学『法学論集』三七号）八五頁  
 一九八八年三月

- 「パール・ハーバーの傷跡は癒えたか」『正論』一九八八年二月号 八頁 一九八八年二月
- “The Constitution of Japan—Its Past Forty Years” (駒澤大学『法学部研究紀要』三八号) 一八頁 一九八九年一月
- “The Impact of Internationalization on the Japanese Defense Issue” Univ. of Singapore 三二頁 一九八九年四月
- 「日本の防衛問題に関する国際化の影響」(防衛法学会『防衛法研究』一二号) 一七頁 一九八九年一月
- 「比較憲法学の意義、方法、課題(1)」(駒澤大学『法学論集』四〇号) 二七頁 一九九〇年一月
- 「比較憲法学の意義、方法、課題(2)」(駒澤大学『法学部研究紀要』四八号) 三〇頁 一九九〇年三月
- 「憲法体系の類型化(1)」(駒澤大学『政治学論集』三二号) 八六頁 一九九〇年三月
- 「憲法体系の類型化(2)」(駒澤大学『法学論集』四一号) 四六頁 一九九〇年三月
- “The Framing of the Japanese Constitution” (『Beijing Conference』) 二七頁 (世界法律家会議提出ワークペーパー) 一九九〇年四月
- 「戦後日本における憲法上の諸問題」(中華民國日本研究學會『日本學報』一期) 二二頁 一九九〇年五月
- 「総司令部案における人と思想」(比較憲法学会『比較憲法研究』二号) 一八頁 一九九〇年九月
- 「アメリカ憲法の他国憲法に与えた影響(1)」(駒澤大学『政治学論集』三二号) 二八頁 一九九一年一月
- 「アメリカ憲法の他国憲法に与えた影響(2)」(駒澤大学『法学論集』四二号) 一八頁 一九九一年二月
- 「湾岸戦争と憲法問題」(防衛法学会『防衛法研究』一五号) 一一頁 一九九一年五月
- 「憲法の機能」(『比較憲法研究』三号、ゲル・ヴァン・デル・タンと共稿) 一七頁 一九九一年九月
- 「国際貢献と日本国憲法」(『改革者』) 一一頁 一九九一年一月
- “The Gulf War and the Constitution of Japan” (『Barcelona Conference』) 二六頁 (世界法律家会議提出ワークペーパー) 一九九一年一月
- 「連合国は自衛力を容認していた」(『THIS IS 読売』) 二四頁 一九九二年三月
- 「PKO 法案をめぐる問題点」(防衛法学会『防衛法研究』一六号) 一一頁 一九九二年五月



- 「日本の国際貢献をめぐる論議—小沢調査会報告書について」(『新防衛論集』二〇卷二号) 一四頁 一九九二年 九月
- “The New Role for Japan’s Self-Defense Forces” (『American Political Science Association』)  
 (アメリカ政治学会提出ワークペーパー) 一九九二年 九月
- 「アジア諸国憲法の動向とその特質」(比較憲法学会『比較憲法学研究』四号) 一二二頁 一九九二年一〇月
- 「天皇陛下の憲法問題」(『諸君!』) 四頁 一九九二年一〇月
- 「比較憲法学のすずめ」(『正論』) 八頁 一九九三年 九月
- 「世界の憲法—その生成と発展」(翻訳 駒澤大学『政治学論集』三八号) 三八頁 一九九三年一〇月
- 「これからの憲法論議」(『デイフェンス』) 一〇頁 一九九三年一〇月
- 「世界の憲法—その生成と発展」(2) (翻訳 駒澤大学『法学論集』四八号) 四一頁 一九九四年 一月
- 「世界の憲法、解説と補遺」(3) (駒澤大学『法学論集』四九号) 二八頁 一九九四年 三月
- 「宮沢憲法学説の破綻」(『THIS IS 読売』) 六頁 一九九四年 一月
- “The Constitution of Japan” (駒澤大学『法学部研究紀要』五三三号) 一四頁 一九九五年 三月
- 「成立状況からみた憲法の分類」(1) (駒澤大学『法学論集』五〇号) 四〇頁 一九九五年 三月
- 「一九九〇年代における世界の憲法動向」(憲法学会『憲法研究』一七号) 三一頁 一九九五年 五月
- 「アジア諸国における人権規定—その規範と現実」(早稲田大学社会科学研究所『社会科学討究』一一号) 二五頁 一九九五年 八月
- 「成立状況からみた憲法の分類」(駒澤大学『政治学論集』四二二号) 三〇頁 一九九五年一〇月
- 「君主制の類型」(1) (駒澤大学『法学部研究紀要』五四号) 三九頁 一九九六年 三月
- 「君主制の類型」(2) (駒澤大学『政治学論集』四三三号) 二九頁 一九九六年 三月
- 「成立状況からみた憲法の分類」(3)・完 (駒澤大学『法学論集』五三三号) 四五頁 一九九六年 三月

- 「日米安保条約と集団的自衛権」『ディフェンス』二九号) 八頁  
 一九九六年一〇月
- 「共生の権利を求めて」(『THISIS 読売』) 八頁  
 一九九六年一月
- 「日本国憲法の50年—その過去、現在そしてこれから」(『明治聖徳記念学会紀要』二〇号) 一四頁  
 一九九七年四月
- 「法制局解釈を検証する」(『日本国憲法のすべて THISIS 読売』臨時増刊号) 一四頁  
 一九九七年五月
- 「日本国憲法の神話からの解放」『月刊自由民主』七頁  
 一九九七年六月
- 「憲法九条と特殊日本の観念」『月刊自由民主』八頁  
 一九九七年七月
- 「異常な第四章『国会』の成立過程」『月刊自由民主』八頁  
 一九九七年八月
- 「日本国憲法制定の『自己偽慢』性」『月刊自由民主』八頁  
 一九九七年九月
- 「日本的人権概念の再構築を」『月刊自由民主』八頁  
 一九九七年十一月
- 「司法権の独立』再考」『月刊自由民主』八頁  
 一九九七年十二月
- 「象徴天皇』の意義」『月刊自由民主』八頁  
 一九九八年一月
- 「憲法論議のありようを考える」『月刊自由民主』八頁  
 一九九八年二月
- 「『日米防衛協定のための指針』(新ガイドライン) および『周辺事態法案』の概要と今後の課題」  
 『防衛法研究』二二号) 一四頁  
 一九九八年一〇月
- 佐藤達夫『日本国憲法誕生記』(中公文庫)「解説」一六頁  
 一九九九年四月
- 「日本国憲法成立過程における極東委員会の役割と限界(上)」(駒澤大学『法学論集』六〇号) 三三頁  
 二〇〇〇年一月
- 「二つのミレニアム憲法—スイスとフィンランドの新憲法について」(駒澤大学『政治学論集』五三号) 二〇頁  
 二〇〇一年三月
- 「世界の憲法トレンド」『月刊自由民主』六頁  
 二〇〇一年五月
- 「一九九〇年以降に制定された諸国憲法の動向—いくつかの項目との関連を中心に」(『駒澤法学』一卷一号) 二〇頁

- 「世界の現行憲法と平和主義条項」(駒澤大学『法学部研究紀要』六〇号) 三三頁 二〇〇二年 一月
- 「日本国憲法成立過程における極東委員会の役割と限界(2)」(駒澤法学』二卷一号) 三〇頁 二〇〇二年 一月
- 「テロ対策関連法および有事関連法の概説と問題点」(『防衛法研究』二六号) 二二頁 二〇〇二年 一月
- 「国家の非常事態を想定し憲法に明文規定せよ―それが世界の常識である」(文藝春秋編『日本の論点』二〇〇三) 四頁 二〇〇二年 一月
- 「日本国憲法成立過程における極東委員会の役割と限界(3)」(『駒澤法学』二卷二号) 三六頁 二〇〇三年 一月
- 「日本国憲法成立過程における極東委員会の役割と限界(4)」(『駒澤法学』二卷三号) 二八頁 二〇〇三年 三月
- 「日本国憲法成立過程における極東委員会の役割と限界(5)」(『駒澤法学』二卷四号) 四五頁 二〇〇三年 三月
- 「世界の憲法トレンドと立憲主義―おもに日本国憲法に規定のない若干の項目を素材にして」(比較憲法学会『比較憲法学研究』一五号) 二四頁 二〇〇三年 一月
- 「日本国憲法成立過程における極東委員会の役割と限界(6)」(『駒澤法学』三卷一号) 五四頁 二〇〇三年 二月
- 「国際平和を希求すればこそ9条改正と集団的自衛権の行使は不可欠である」(文藝春秋社『日本の論点』2004) 四頁 二〇〇三年 一月
- 「日本国憲法は押しつけか」(『文藝春秋』二〇〇四年一月号) 三頁 二〇〇四年 一月
- 「日本国憲法の記述に関する連合国総司令部の検閲の実際」(『駒澤法学』三卷二号) 六八頁 二〇〇四年 二月
- 「憲法九条の成立経緯」(駒澤大学『法学部研究紀要』六二号) 一一二頁 二〇〇四年 三月
- 「無改正は世界の非常識だ」(『中央公論』) 八頁 二〇〇四年 六月
- 「憲法改正への視点―いま日本に求められること」(『月刊自由民主』) 六頁 二〇〇五年 一月
- 「時代を見据えた憲法九条改正を」(『中央公論』) 九頁 二〇〇五年 六月

- 「各国憲法概要 (1)」『駒澤法学』五卷一号 (二七頁) 二〇〇五年一月
- 「各国憲法概要 (2)」『駒澤法学』六卷一号 (三二頁) 二〇〇六年一月
- 「憲法改正論議の論点と課題」『世界と議会』四頁 二〇〇六年一月
- 「憲法に規定されるべきは最小限、『平和立国、軍の保持、文民統制』の三つ」(文藝春秋社『日本の論点二〇〇七』四頁) 二〇〇六年一月
- 「憲法改正国民投票法案の諸問題」『改革者』四頁 二〇〇七年三月
- 「日本国憲法成立過程における共産党の態度」(『月刊自由民主』六頁) 二〇〇七年五月
- 「国際社会の中の日本国憲法」『月刊自由民主』六頁 二〇〇八年九月
- 「いわゆる四類型に関する若干の憲法的考察—政府解釈の再検証を中心として—」(防衛法学会『防衛法研究』三二号) 三八頁 二〇〇八年一〇月
- 「国家再生のための憲法論議を」『月刊自由民主』六頁 二〇〇九年七月
- 「世界の憲法制度概要 (1)」『駒澤法学』九卷一号 (三一頁) 二〇〇九年一〇月
- 「世界の憲法制度概要 (2)」『駒澤法学』九卷三号 (二八頁) 二〇一〇年六月
- 「世界の憲法制度概要 (3)」『駒澤法学』九卷四号 (四六頁) 二〇一〇年六月
- 「世界の憲法制度概要 (4)」『駒澤法学』一〇巻一号 (五〇頁) 二〇一〇年一〇月
- 「世界の憲法制度概要 (5)」『駒澤法学』一〇巻二号 (四六頁) 二〇一〇年二月
- 「各国憲法の制定年次 (1940年代) と改正の実際」(駒澤大学『法学部研究紀要』六九号) 三五頁 二〇一一年三月

三. 小稿

産経新聞「沈黙の大国」特別取材班「憲法は時代と共に歩むものだ」(『日本を変える二〇〇人の直言』(東洋堂) 一二頁)

一九九四年 四月

シリーズ「世界の憲法見てある記」(『国会月報』)

- (1) 「ネパール」(一九八九年一〇月号) 二頁
- (2) 「スリランカ」(一九八九年一月号) 二頁
- (3) 「インド」(一九八九年二月号) 二頁
- (4) 「フィジー共和国」(一九九〇年一月号) 二頁
- (5) 「オーストラリア」(一九九〇年二月号) 二頁
- (6) 「ニュージーランド」(一九九〇年三月号) 二頁
- (7) 「シンガポール」(一九九〇年四月号) 二頁
- (8) 「大韓民国」(一九九〇年五月号) 二頁
- (9) 「中華人民共和国」(一九九〇年六月号) 二頁
- (10) 「中華民国」(一九九〇年七月号) 二頁
- (11) 「フランス」(一九九〇年八月号) 二頁
- (12) 「イタリア」(一九九〇年九月号) 二頁
- (13) 「サン・マリノ」(一九九〇年一〇月号) 二頁
- (14) 「スイス連邦」(一九九〇年十一月号) 二頁
- (15) 「ドイツ連邦」(一九九〇年十二月号) 二頁
- (16) 「イギリス」(一九九一年一月号) 二頁
- (17) 「オランダ王国」(一九九一年二月号) 二頁
- (18) 「ベルギー」(一九九一年三月号) 二頁
- (19) 「ルクセンブルク」(一九九一年四月号) 二頁

西 修教授 プロファイル

- (20) 「リヒテンシュタイン」(一九九一年五月号) 二頁
  - (21) 「マレーシア」(一九九一年七月号) 二頁
  - (22) 「タイ」(一九九一年八月号) 二頁
  - (23) 「ブルネイ」(一九九一年九月号) 二頁
  - (24) 「インドネシア」(一九九一年一〇月号) 二頁
  - (25) 「ハンガリー」(一九九一年十一月号) 二頁
  - (26) 「ポーランド」(一九九一年十二月号) 二頁
  - (27) 「デンマーク」(一九九二年一月号) 二頁
  - (28) 「スウェーデン」(一九九二年二月号) 二頁
  - (29) 「フィンランド」(一九九二年三月号) 二頁
  - (30) 「アメリカ」(一九九二年四月号) 二頁
  - (31) 「カナダ」(一九九二年五月号) 二頁
  - (32) 「スペイン」(一九九二年六月号) 二頁
  - (33) 「印象に残る国や町」(一九九二年七月号) 二頁
  - (34) 「各国憲法の比較研究」(一九九二年八月号) 二頁
- 「なるほど・ザ・世界の憲法」(『法苑』九七号) 二頁
- 連載『日本国憲法制定』物語』(『週刊自由民主』二〇〇六年四月一日〜〇七年八月二八日、全五五回)
- 連載『ざっくばらん 憲法欄』(一九七四年八月一五日創刊、二〇一二年四月休刊、合計約二二〇本)

#### 四 報告書等

平和・安全保障研究所報告書『わが国の危機管理態勢の現状』(主査 東京大学教授・佐藤誠三郎) 一七六頁

- 平和・安全保障研究所報告書『わが国における危機管理の軍事的側面』（主査 東京大学教授・佐藤誠三郎）一七八頁 一九七九年 六月
- 平和・安全保障研究所報告書『わが国の危機管理に関する軍事的側面 危機管理のための政策決定過程』（主査 西 修）七八頁 一九八〇年 一月
- 『防人たち』（シンポ司会、北国新聞社）三〇八頁 一九八一年 三月
- 『図解による法律用語辞典』（自由国民社）「各国憲法アラベスク」六一項目 一九八一年 三月
- 「安田寛・名誉理事長を追悼して」（『防衛法研究』一九九号）二頁 一九九二年 九月
- Nouveaux temps,nouveaux droits? *Cahiers du Japan*, No 57,automne 1993; 二頁 二〇〇五年一〇月
- Bringing Article 9 into the Twenty-first Century, *Japan Echo*, August 2005.

\*書評は省略しました。

\*整理不十分のため、一〇頁以上の論稿等で掲載もれのものもあります。

#### 五. 学会等発表（シンポジウムは主なものに限る）

- 一九六九年 七月 二院制の凋落（憲法学会）
- 一九七一年 七月 言語と憲法―比較憲法的考察（憲法学会）
- 一九七二年 七月 戦争と平和と憲法と（憲法学会）
- 一九七七年 七月 わが国防衛法制の諸問題（憲法学会・防衛法研究会との合同学会）
- 一九八五年 六月 日本国憲法の制定過程について（憲法学会）
- 一九八八年一〇月 *The Impact of Internationalization on the Japanese Defense Issue*（於 シンガポール国立大学）

- 一九九〇年 四月 The Framing of the Japanese Constitution (世界法律家会議 於、北京人民大会堂)
- 一九九〇年 五月 戦後日本における憲法上の諸問題 (第一回東北亜細亜学術交流 於、台湾国立政治大学)
- 一九九一年 五月 The Myth of the Japanese Peace Constitution (於、シンガポール東南アジア研究所)
- 一九九一年 九月 諸外国の最近の憲法・防衛関係について (防衛法学会)
- 一九九一年一〇月 アジア諸国憲法の特質を考える視座 (比較憲法学会)
- 一九九一年一〇月 The Gulf War and the Constitution of Japan (世界法律家会議 於、バルセロナ)
- 一九九二年 九月 The New Role for Japan's Self-Defense Forces (アメリカ政治学会 於、シカゴ)
- 一九九四年一〇月 最近の世界の憲法動向 (憲法学会)
- 一九九五年 九月 憲法を考えるシンポジウム (宮崎国際大学、読売新聞社主催)
- 一九九七年一月 憲法施行五〇周年記念シンポジウム (憲法調査議員推進連盟、於、憲政記念会館)
- 一九九八年 三月 日本国憲法と宗教 (国際インターネット・シンポジウム、於、駒澤大学)
- 一九九九年 六月 ガイドライン関連法をめぐる法的諸問題 (防衛法学会)
- 二〇〇〇年一月 日本の有事法制整備のあり方 (防衛法学会)
- 二〇〇一年一月 対テロ米軍等支援新法の問題点 (防衛法学会)
- 二〇〇二年 四月 “総括—9/11—”米国内テロ事件への各国の対応とその法的評価 日本の対応 (防衛法学会)
- 二〇〇二年一〇月 世界の憲法トレンドと立憲主義 (比較憲法学会)
- 二〇〇四年一月 憲法と自衛隊の半世紀 (防衛法学会)
- 二〇〇八年一〇月 現代憲法と平和主義 (比較憲法学会)
- 二〇一〇年 五月 日米安保体制の50年—その過去と展望— (防衛法学会・日本防衛学会合同研究大会、シンポジウム)



## 六、国会での発言（公述人・参考人）

- 一九九一年一月 国際連合平和協力に関する中央公聴会（衆議院特別委員会 公述人）  
一九九四年 一月 政治改革に関する中央公聴会（参議院特別委員会 公述人）  
一九九九年 五月 日米防衛協力のための指針に関する中央公聴会（参議院特別委員会 公述人）  
二〇〇〇年 二月 衆議院憲法調査会（参考人）  
二〇〇三年 五月 参議院憲法調査会（参考人）  
二〇〇七年 五月 参議院日本国憲法に関する調査特別委員会（参考人）

## 七、マスコミ関連

- NHKテレビ（九六年五月四日 「未来潮流 憲法から考える二一世紀の日本」（六〇分 司会 NHK解説委員長・高島肇久）、〇七年五月二〇日 「日曜討論 憲法とどう向き合うか」（六〇分 司会 NHK解説委員・島田敏男）、NHKニュース（〇五年一〇月二八日）、〇六年五月六日 「what's on Japan」（NHK海外向け）、日本テレビ（〇三年五月三日 「ウェークアップ」進行 桂文珍）、TBSテレビ（九二年五月二四日 「サンデーモーニング」司会 関口宏）、テレビ朝日（九五年五月二〇日 「あまから問答」司会 ジャーナリスト・大宅映子） 〇五年八月一四日 「田原聡一朗スペシヤル 敗戦から六〇年」、フジテレビ（九六年八月五日、巻町原発住民投票 キヤスター・安藤優子）、東海テレビ（九九年一月一日 「タブーから論憲の時代へ」）、テレビ金沢（九四年一二月二六日 「小松基地騒音訴訟名古屋高等裁判所金沢支部判決を裁判所前より現地実況解説」）、チューリップテレビ（九三年五月一五日 「なるほど・ザ・世界の憲法」立川志の輔との対談）など。

NHKラジオ、文化放送、ラジオ日本、Voice of America Radio など

読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞、東京新聞、北海道新聞、神奈川新聞、沖縄タイムズ、西日本新聞、静岡新聞、朝雲新聞、共同通信社配信各新聞など

『朝日ジャーナル』、『世界週報』、『国会月報』、『改革者』、『AERA』、『諸君』、『正論』、『FORESIGHT』、『世界と議会』

『世界と日本』『法律文化』など

八、民間・政府委員（主なものに限る）

- (一) 読売新聞社憲法問題調査会（会長 猪木正道、一九九二年一月～一九九二年十二月）委員
- (二) 安倍内閣「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」（座長 柳井俊二、二〇〇七年五月～二〇〇八年六月）委員
- (三) 内閣府「情報保全の在り方に関する有識者会議」（座長 西 修、二〇〇九年七月～二〇一〇年十二月）委員

九、助成金等

- 一九七七年～七八年度 文部省科学研究費助成金「中東諸国の憲法体制」（共同研究）
- 一九七九年度 鹿島学術振興財団研究助成「アジア諸国の憲法体制」（共同研究）
- 一九七九年度 American Council of Learned Society Advanced Research Short-Term Per Diem Fellowship  
（単独、於：ワシントンD.C.）
- 一九八〇年度 三菱財団法人文部省科学研究助成「アフリカ諸国の憲法制度」（共同研究）
- 一九八四年度 文部省科学研究費補助金「ハッシー文書の研究」（共同研究）
- 一九九一年度 国際交流基金国際会議出席助成金「世界法律家会議発表」（単独、於：バルセロナ）
- 一九九二年度 吉田国際教育基金海外研究発表助成金「アメリカ政治学会第八八年次集会発表」（単独、於：シカゴ）
- 一九九六年度 桜田會特別出版助成『憲法体系の類型的研究』（単独）